

# 長岡京跡左京第 525 次調査現地説明会資料

平成 20 年 2 月 23 日(土)

所在地 向日市鶏冠井町十相 25 番地

推定地 一条大路・東二坊坊間東小路の交差点、鶏冠井遺跡、石田遺跡

調査期間 平成 20 年 2 月 1 日～2 月 29 日(予定)

調査面積 150m<sup>2</sup>

調査所管・主体 向日市教育委員会・財団法人向日市埋蔵文化財センター(担当:梅本 康広)

## 1 はじめに

今回の発掘調査は、長岡京跡の範囲と内容を確認するための調査として実施しました。調査地は一条大路と東二坊坊間東小路の交差点位置に設定しました。

それぞれの道路に伴う側溝を検出し、その正確な位置や施工状況を把握するとともに、側溝の中から当時の廃棄物(土器や木簡)を確認して、これをもとに隣接する宅地などの性格を明らかにできればと考えています。

## 2 発見された遺構と遺物

現在の耕作土から約 0.2m まで掘り下げたところ、長岡京跡の側溝を確認しました。

【一条大路南側溝 1】 一条大路は道路幅約 24m(当時の尺で約 80 尺)の規模があります。その南側に設けられた排水溝を確認いたしました。幅約 2.0m、深さ 0.4m で、断面は逆台形をしています。内部の堆積土は 3 層に分けられます。下層は暗灰色砂質土を基調とし砂、礫が含まれ流水性が窺えます。中層は濃灰色粘土で水が溜まったり、澱んでいた時期があったものとみられます。上層は灰オリーブ色粘質土を基調とし礫や斑土とともに平安時代前期の灰釉陶器が含まれており、廃都後しばらくして埋め立てられていたことがわかります。

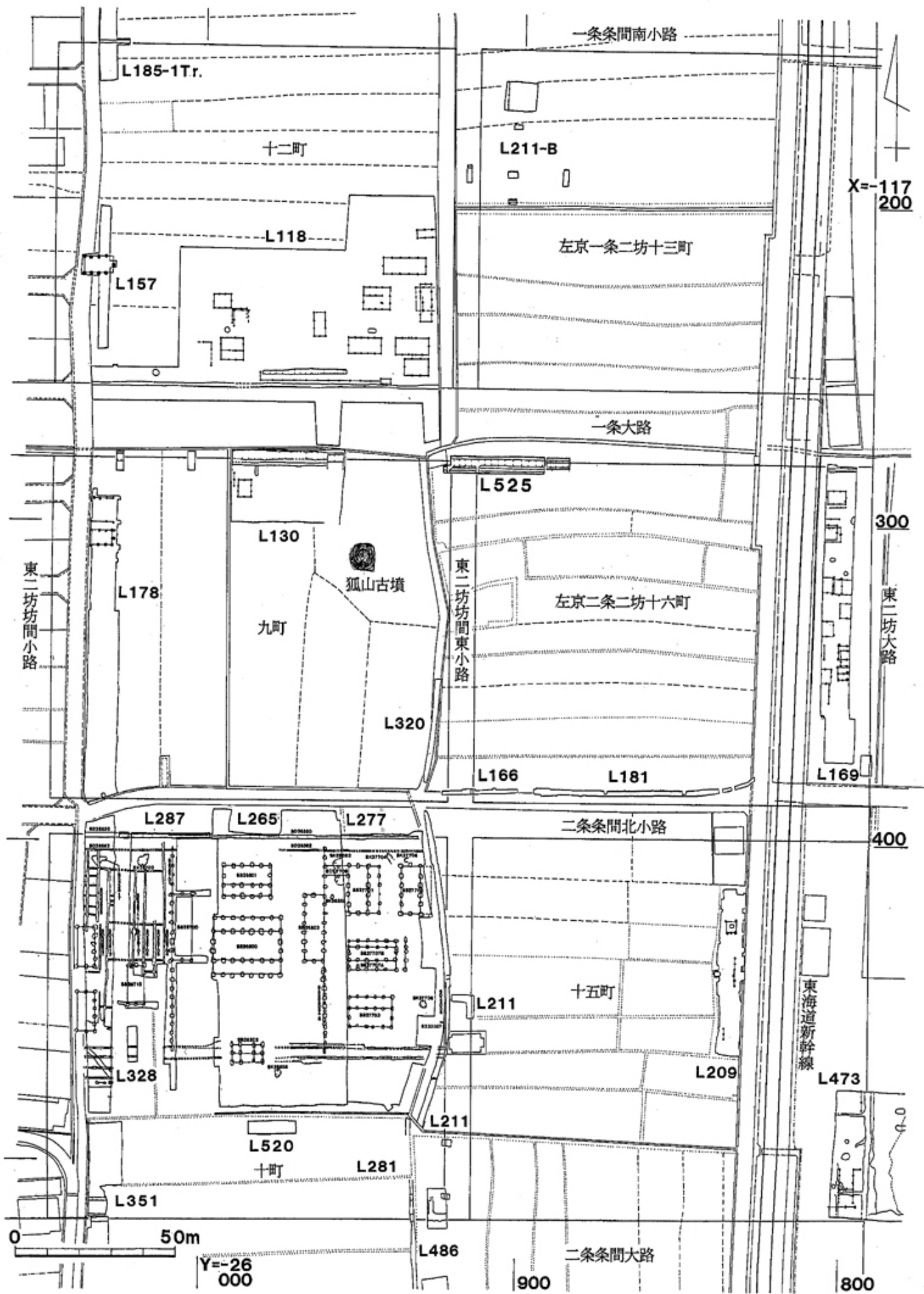
【東二坊坊間東小路西側溝 2】 東二坊坊間東小路は道路幅約 9m(約 30 尺)の規模があります。西側溝は幅 0.5m、深さ 0.25m です。内部の堆積土は 2 層に分けられます。下層は灰色粘質土ですが、上層では茶褐色粗砂が溝肩周縁にまでひろがって分布していました。このような溢流した様相は、一条大路南側溝にはなく、埋没の過程や時期がそれぞれで異なる可能性が考えられます。

【東二坊坊間東小路東側溝 3】 西側溝の中心から約 9m 離れた位置で確認されました。東側溝は幅 0.8m、深さ 0.3m の規模があります。内部の堆積土は、灰色粘質土を基調とし、上半側には細砂が多く含まれます。西側溝と様相を異にします。

【鶏冠井遺跡関連遺構】 弥生時代前期の集落遺跡に関わる土壌が検出され、内部から弥生土器が出土しています。長岡京期の調査途中のため詳細はこれからになります。

## 3 まとめ

今回の調査の結果、一条大路と東二坊坊間東小路の交差点では大路が優先して敷設され、その側溝が小路の路面上を貫く形で設けられていたことがわかりました。また、道路の規模に応じて、側溝幅が異なることも明らかになりました。なお、調査地付近の条坊道路は平安時代前期には埋没していたものと思われ、以降は耕作地となり、現在に至るまで変わらぬ土地利用の推移であったと推測されます。



▲左京第525次調査地周辺の地形と調査成果